環　境　新　聞

平成 22 年(2010 年)3 月 31 日（水）　地球環境・総合　(3)

東海地区環境産業マップ 4

フルハシ環境総合研究所

企業の環境・CSR包括支援

環境行動の積み重ねで「シード」獲得

「来月で創業10年目に入るが、ここ数年で多様なサービスを生み出し、包括的に企業をサポートできる体制が整いつつある」と、フルハシ環境総合研究所の船橋康貴社長は語る。企業の環境・CSR経営を多角的に支援するため、NPO的な役回りも引き受ける。

現在好評を博しているのが、企業と社員の社会貢献を同時に実現するwebポイントシステム「エコモチ」だ。これは、社内の環境・CSRの意識を高めたいと考える企業が、全員参加でエコ・モチベーションを向上させる仕組み。社員それぞれがエコモチのwebサイトにアクセスし、環境配慮行動メニューについて、実行できたかどうかをチェックしていく。行動の例としては、「昼休み等の消灯」や「PCのモニター電源をこまめに切った」などがある。

これらの結果、チェックの数だけ、エコモチの単位である「シード」を獲得できる。一人ひとりの善意の行動を一粒の〝種〟とイメージし、種が成長していくように善意の行動が広がっていくことを目指したネーミングだ。

途上国支援のNPO等に寄付

個人ごとのページでは、獲得シード数やCO$_2$削減量、コスト削減額が分かる。また会社全体やエコモチ参加企業全体での参加ユーザー数やシード数、CO$_2$削減量などもすぐに分かるので、みんなでエコ活動をしている一体感につながっていくという。参加人数中の自分の順位なども表示される。

こうして獲得したシードは、多様なNPO等が行っている途上国支援などの活動に対して、自由に分配して贈ることができる。企業からの寄付が、この分配の比率に応じて配分され、エコモチ事務局を通して各団体に入金される仕組みだ。

「企業はCO$_2$やコストの削減、社内の活性化など多くの効果が得られる。社員に、世界とのつながり感と自己肯定の念が生まれてくる」と反響が大きい。現在、ユーザー数は2万人を突破している状態だ。

製造工程の資源・エネ効率化も促進

エコモチが人づくりの取り組みだとすると、一方で製造工程の資源生産性の効率化を促進するのが「PIUS」（ピウス）チェックだ。資源とエネルギーの流れを可視化し、ムダを徹底的に洗い出して対策を講じる。同方式は、ドイツのフルトラインヴェストファーレン州効率化エージェンシーで開発された手法で、同国では約500件の導入実績がある。

これらをはじめ、環境教育や研修プログラム、企業戦略の立案など、数多くの支援メニューを整備。幅広いニーズに対応する準備を進めている。

「中国企業からの問い合わせ、引き合いも増えている。同国には、当社のような企業がまだない」とのことで、上海か北京あたりに拠点を設置する方向で検討に入っている。（堀内義之）

「エコモチ」の表示画面